

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	電気・舞台知識 I	74	2	4
講義	P C 知識 I	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	74	2	4
実習	分野別実習 I	74	2	2
実習	サウンドアナライズ I	74	2	2
実習	D A W & T h e o r y I	74	2	2
実習	P r o T o o l s I	148	4	4
演習	レコーディング I	148	4	8
合計		888	24	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。</p> <p>②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。</p> <p>③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
到達目標					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようにする。</p> <p>・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身に付ける。</p> <p>・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 5～8回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ
【前期】 9～12回目	・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語) ・敬語を使った自己紹介文作成
【前期】 13～16回目	・電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方) ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 17～19回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 20～23回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・自己PR、志望動機作成
【後期】 24～27回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成
【後期】 28～31回目	・一般常識、SPI対策
【後期】 32～35回目	・面接対策
【後期】 36～37回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。 ・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
①演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など舞台業界裏方として会館、公共文化施設、ホール、演芸場、ライブハウス等への出入りの際最低限の電気に関する知識の習得、劇場、ホール等の舞台機構や公演製作等の基礎知識を学び舞台技術基礎を取り入れる事により現場でのコミュニケーションを円滑にし、優れた創造性の基盤をつくりあげる。					
到達目標					
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け校外現場にも対応可能にし社会人として業界人として活躍出来るよう学習する。					
・実際に民間劇場での実習を行い様々な用語舞台設備等の確認、現場にて劇場等での電気に対する理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	電気・電流についての講義① ・電気と？
【前期】 5～8回目	電気・電流についての講義② ・感電の恐怖及び対策。
【前期】 9～12回目	電気・電流についての講義③ ・電気極性について。
【前期】 13～16回目	電気・電流についての講義④ ・電流について。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
【後期】 20～23回目	劇場舞台についての講義① ・劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 24～27回目	劇場舞台についての講義② ・劇場舞台照明電源について。
【後期】 28～31回目	劇場舞台についての講義③ ・劇場舞台に必要な電気知識。
【後期】 32～35回目	劇場舞台についての講義④ ・舞台全般電気知識を極める。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台裏側の業界は仕事上電気を扱う事は必須です。近年電気事故による大怪我も少なくありません。自分自身の身を守る事にもつながる電気知識の学習にしっかりと励んで下さい。劇場での業務にも支障が出ないように舞台知識も必要な科目です。劇場内の機構やシステムを知り尽くして卒業して頂ければ現場での即戦力に繋がります。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	一般業務におけるビジネススキルを企業を始め、西日本新聞TNC文化サークル・JEUGIAにてビジネスマナー講師として従事。人間心理学を交えたコーチングを行うコーチでもある。 上記の経験を活かし、ティーチングだけでなくコーチングスキルを交え「考える力」を育成する講義を行う。				
授業概要					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなすことができることが必須項目である。この講義では、パソコンの各部名称といった最も基本的な項目からスタートし、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と基本的な使い方を学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。 ・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどです。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Microsoft Office概要、パソコン操作の基本。
【前期】 5～8回目	Microsoft Excelの基本①(ファイルの作成、保存、簡単な計算など)
【前期】 9～12回目	Microsoft Excelの基本②(簡単な関数、罫線など)、Wordの基本(ファイルの作成・保存)
【前期】 13～16回目	Microsoft Wordの基本③(各種機能の紹介、簡単な文書作成など)
【前期】 17～19回目	■前期試験:Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Microsoft Wordの基本④(レイアウト要素の確認)
【後期】 24～27回目	Microsoft PowerPointの基本①(ファイルの作成、保存、簡単なプレゼンテーションなど)
【後期】 28～31回目	Microsoft PowerPointの基本②(プレゼンテーションについて)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について総復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 与えられた指示通りのExcel/Word/PowerPointファイルが作成できるかどうかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/PC操作」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェアです。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないコンピュータによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に積極的に活動中。 上記の経験を活かし楽曲や音の分析に関する講義指導を行う。				
授業概要					
<p>①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 5～8回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 9～12回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 13～16回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 20～23回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 24～27回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 28～31回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 32～35回目	ブロックダイアグラムについて①、ブロックダイアグラムについて②
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / 機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブックイングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし楽曲や音の分析に関する講義指導を行う。				
授業概要					
<p>①クラシック、ジャズ、ブルース、ロックやポップスなど幅広いジャンルの曲を分析し、サウンドにおける特徴を学びます。</p> <p>②使用されている楽器や機材、バランスや定位、イコライジングや各種エフェクト効果などについて分析し、楽曲の制作過程における手法及び技術を学びます。</p> <p>③楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析できるようになる。</p>					
到達目標					
<p>・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。</p> <p>・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 5～8回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 9～12回目	エレキギターに関する音の分析、解説。エレキリック。
【前期】 13～16回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 20～23回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 24～27回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 28～31回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 32～35回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW&Theory I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW&Theory I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①オリジナル楽曲の制作を行い、打ち込みなどの制作過程を学び、音楽理論についての知識を習得する。</p> <p>②各種楽器(ギター、ベース、ドラム等)の音の性質の特徴などについて知識を身につけ、既存の曲のコードやリズム、メロディや音作りを分析する。</p>					
到達目標					
<p>・Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作並びに編集作業の基礎技術を学ぶ。また、オーディオインターフェイスやその他周辺機器を利用して、DAWIにおける高度なオペレート技術を習得する。</p> <p>・楽曲制作や曲の分析を通して、PAやレコーディングに必要な音楽的センスを身につけ、様々な場面で臨機応変に対応できることを到達目標として目指す。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	各生徒の卒業後の目標を聞く。基本的なDAWの操作方に慣れる為、簡単なドラムの打ち込み。
【前期】 5～8回目	楽器が弾けなくても曲が作れる方法。loopやコードトリガーやアルペジエーターを使ってみる。
【前期】 9～12回目	loop等を使って短い曲を作ってみる。それぞれの曲を聞いてみてアドバイス。
【前期】 13～16回目	音楽理論。コードの出来かた。コード進行の作り方。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期学んだ内容の筆記試験を実施、音楽理論の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	自分でコード進行を作ったの楽曲作成。
【後期】 24～27回目	作った楽曲のクオリティーを上げてみよう。アレンジや音作りについて。
【後期】 28～31回目	ミックスやマスタリングについて。楽曲分析。
【後期】 32～35回目	一年の総復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験を実施。logicを使用してDAWの操作の正確性、知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作並びに編集作業を学びます。また、オーディオインターフェイスやその他周辺機器を利用して、DAWIにおけるオペレート技術を習得し、DAWソフトを自在に操作できるようになります。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	Pro Tools I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	Pro Tools I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて長年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングに従事。PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 上記の経験を活かしPro Toolsの実技指導を行う。				
授業概要					
①Macの基礎知識および、多くのレコーディングスタジオで導入されているPro Toolsについて学ぶ。 ②Pro Toolsとミキシングコンソールの関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ③授業内でPro Toolsを使った録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・Macへの知識、Pro Toolsの操作技術及び理解力を高め、基礎知識を身につける。 ・Pro Toolsの操作に関する基礎知識を身につける事によって、Pro Toolsの操作速度の向上及び正確性を目指す。 ・Pro Toolsの応用技術を学ぶ事で、現場に出た後も技術を磨いていける自己研鑽力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	Macの基礎知識、操作方法を学ぶ。 Pro Toolsの概要説明。 Pro Tools新規セッションの作成方法。
【前期】 9～16回目	トラックタイプの説明。 ツールの機能について学ぶ。
【前期】 17～24回目	編集ウィンドウおよびミックスウィンドウでの基本操作。 Pro Tools録音における基本操作。 カウンター、メモリーロケートについて学ぶ。
【前期】 25～32回目	テンポ検出について学ぶ。 Pro Toolsでの編集操作について学ぶ。
【前期】 33～37回目	■前期試験: 前期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 38～45回目	レコーディングにおけるPro Tools内のセッティングについて学ぶ。 内部Busの活用方法について学ぶ。 Pro ToolsのI/O設定、ルーティングについて学ぶ。
【後期】 46～53回目	Pro Toolsのショートカットキーについて基本説明。 ショートカットキーを活用して、操作の速度向上を目指す。
【後期】 54～61回目	ショートカットキーを活用した操作の精度向上を目指す。 テイク選択や、ノイズ除去等の編集について学ぶ。
【後期】 62～69回目	トラックダウンの作業について理解を深める。 バウンスについて学ぶ。 オーディオデータやビデオデータ等のインポート、エクスポートについて学ぶ。
【後期】 70～74回目	■後期試験: 後期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場での空気感を学び、就職した後活かせる知識及び技術を身につけます。 また、今後とも変化していくであろうレコーディングシーンにも対応出来る柔軟性を身につけ、基礎、応用、操作速度の速さを身につける事によって現場で活躍できるようになります。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代から自身のユニットを組み活動。活動と並行してDTMの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixmo手掛けるようになり、近年ではメジャー、インディーなど多数の作品に携わっている。これらの経験を活かしてレコーディングに関する実技、講義を行う。				
授業概要					
①レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用できるように学習を進める。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用出来るようになる。 同じ役割であれば初見の機材でも使用出来る応用力を身に付ける。 実践的な練習をすることで、時間のロスのない円滑なレコーディング作業を進められるようになる。 レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	スタジオの電源の入れ方から、ケーブルの正しい巻き方(8の字巻き)など基本的な作業を理解する。 レコーディングスタジオ内の主要な機材の役割とレコーディング作業全体を理解する。
【前期】 9～16回目	マイクやコンソール、スピーカーなどスタジオに常設されている機器の役割を理解する。 マイクのマイクスタンドへの取り付け方やケーブルの接続方法、CueBoxなど録音前の準備について理解する。
【前期】 17～24回目	機器間接続の中心となるパッチベイを理解し信号の流れ(ルーティング)を理解する。 レコーディングの内容に合わせた準備から回線チェック、片付けまで一連の作業の流れを理解する。
【前期】 25～32回目	マイク、ラインレベルの信号の取り扱いや、Pro Toolsへの録音時の注意点など。 録音のセッティングにおいて、必要な機材と設置方法を理解する。
【前期】 33～37回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 38～45回目	外部エフェクトやProToolsの内部エフェクトなど使用・接続方法を理解する。
【後期】 46～53回目	アーティストを交えたレコーディングを行い全体像の確認。 機器や流れの理解度を再確認する。 直接聴く音と機材によって録音された音の違いを知る。
【後期】 54～61回目	楽器やアーティストの構成などにより変わってくる事前準備や楽器に対する接続方法の違いを理解する。 様々な楽器についての理解を深める。
【後期】 62～69回目	バンドや引き語りなどアーティストを交えたレコーディング実習。 実習での反省点や改善点を確認する。
【後期】 70～74回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した内容を中心に学んでいきます。 また、不明点は担当講師が解説し、理解できるように、機材等を使用して説明します。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。